

カエルの親子？をさがそう

太田 慶子（千葉市）

日 時： 2009年5月3日（日）10：30～12：00 天候：曇

参加者： 39名（大人24名 子ども15名）

担当指導員：太田慶子 岡田敬子

連休の真中ということで、人が集まるか心配したが、親子連れが多く、にぎやかな観察会となった。

最初に広場で、用意しておいた＜抱接中のシュレーゲルアオガエルと、ニホンアカガエルのオタマジャクシ＞を見せながら説明。上に乗っている小さい



抱接中のシュレーゲルアオガエルと泡状卵塊

のは子どもでなくてオスだと話し、カエルを見せながら前脚と後脚について話す。離されたオスがメスに対してラブコールを始めたので鳴き袋も見てもらった。また、大草の「カエル」について表にしたものを見せてカエルの豆知識をお話した。2月の第3日曜の観察会のテーマが「アカガエルの卵」だったが、「アカガエルは1～2月の寒い時期に産卵するので、その頃、水の張ってある＜冬水田んぼ＞でないと産卵できない。今は田んぼの乾田化で数を減らし、絶滅危惧種になっているが、ここ大草は千葉市が昔からの谷津田を残そうとした場所なのだ」と話す。アカガエルやヒキガエルの卵塊のイラストを見せて、今日のメインになるシュレーゲルの卵塊は皆で見つけようと課題にしてみた。最後にカエルを触ったら必ず水で手を洗うようにと注意して、田んぼへ出かけた。

まずは水路や田んぼに、うじょうじよいる黒っぽく小さなヒキガエルのオタマジャクシを見つける。もう後ろ脚が出ている個体も多い。5日前にはたくさんいたアカガエルのオタマジャクシは少なく、ヘビやカルガモの餌になったと思われる。子ども達がカエルを捕まえようとしても、合唱のような鳴き声は、たくさんの人間が畦をうろつくことで聞こえなくなり、居場所がわからない。それで、先に来ていた親子連れがアマガエルやクサガメを捕まえていたので、そのアマガエルをお借りして、シュレーゲルとの違いの説明をした。

シュレーゲルの卵塊については、参加者が＜泡＞をすくってバットに入れてきたので、集まってもらい「これがシュレーゲルの卵塊であり、まるで発砲スチロールのゴミが田んぼに浮いているよう…」と話す。初めて見たという人がほとんどだった。子どもたちもふわふわ卵塊を触って、気持ちいいと満足そう…。既にクリーム色のオタマジャクシになっている個体もいて、これで今日は3種類のオタマジャクシが見られたことになる。また立派なアカガエルを捕まえた子がいて、親ガエルも3種見ることができた。

とにかく泥んこになっての田んぼでのカエル探しは「楽しかった」の一言に尽きたようだ。テーマを「カエル」に絞ったのもよかったのかもしれない。

（他に羽化したばかりのオオミズアオ、エゾヨツメの死骸、たくさんのシオヤトンボ～参加者はシオカラと思われていた～、温暖化で顕著になっているツマグロヒョウモンのオスやシロヘリクチブトカメムシ、カラスアゲハなどアゲハの仲間もたくさんいたが、観察会のときはみんなカエルに夢中だった）